

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第6号(10月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

病虫害発生予察情報については、当該月に発生が懸念される病虫害のうち、巡回調査等に基づき発生量の多少を予報できる病虫害について主に記載しています。

《特に発生に注意》

【バラ科果樹】 **クビアカツヤカミキリ**

【なす】 **うどんこ病**

【きゅうり】 **コナジラミ類**

【かんしょ(さつまいも)】 **基腐病**

【野菜類・花き類】 **シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、コナジラミ類**

《10月の予報概要》

A 水稲

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
水稲 (収穫後防除)		ジャンボタニシ(スクミリングガイ)				

B 果樹類

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
ぶどう (収穫後防除)		べと病、褐斑病、ブドウトラカミキリ				
もも (収穫後防除)		せん孔細菌病、シンクイムシ類				
バラ科果樹		発生に注意： クビアカツヤカミキリ				
みかん			黒点病			
				そうか病		
			ミカンハダニ			
果樹類全般				果樹 カメムシ類		

C 野菜類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす				うどんこ病	
			アザミウマ類		
きゅうり	べと病				
	うどんこ病				
		褐斑病			
		ウリノメイガ			
		ミナミキイロアザミウマ (黄化えそ病の発生に注意)			
				コナジラミ類 (退緑黄化病の発生に注意)	
ねぎ	発生に注意:葉枯病、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ(えそ条斑病)				
かんしょ (さつまいも)	発生に注意:基腐病				

※ねぎは令和5年度より巡回調査を開始したため、平年値がありません。

D 野菜類・花き類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
		コナガ			
			オオタバコガ		
			アブラムシ類		
				コナジラミ類	

《(参考)10月の気象予報》 (大阪管区气象台 9月21日(木)発表)

気温	低い(10%)	平年並(20%)	高い(70%)
降水量	少ない(40%)	平年並(30%)	多い(30%)
日照時間	少ない(30%)	平年並(30%)	多い(40%)

A 水稻(収穫後防除)

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	—	[注意すべき事項] ・稲刈り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて越冬貝を減らす。 ・耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

B 果樹類

1 ぶどう(収穫後防除)

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	—	[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・落葉の組織内で胞子の状態で越冬する。 ・落ち葉や被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・本病の多発したほ場では、収穫後の防除を徹底する。
褐斑病	—	[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・被害枝や葉に付着した病原菌が越冬し、翌年、再び風雨により飛散し、感染・発病する。 ・枯枝や落葉、被害葉は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
ブドウトラカミキリ	—	[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫が枝の内部を食い進み、被害を受けた部分は黒くなる。糞は外に排出しない。 ・せん定枝や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。 ・収穫後の防除を徹底する。

2 もも(収穫後防除)

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	—	[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・落葉の痕部や枝の組織内で越冬する。 ・薬剤防除の際は、事前に秋期せん定を行い、薬液がかかりやすくしてから、ムラがないように散布する。 ・収穫後も被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。 ・本病の多発したほ場では、収穫後の防除を徹底する。
シンクイムシ類	—	[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。 ・本虫の多発したほ場では、収穫後も防除を徹底する。 ・被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス(幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる)を排出する。 ・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。

4 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	やや少ない	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・10月の降水量は少ないと予想されている。

黒点病	やや少ない	[注意すべき事項] ・伝染源となる枯枝は除去し、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。
そうか病	並	[予報の根拠] ・9月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・10月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。
		[注意すべき事項] ・被害葉、被害果実は早期に除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・排水、通風を良好にする。
ミカンハダニ	やや少ない ～並	[予報の根拠] ・9月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・10月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。
		[注意すべき事項] ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

5 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	並	[予報の根拠] ・9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年より少なかった。 ・9月の予察灯への誘殺虫数は一部地域で平年よりやや多く、ミナミアオカメムシやチャバネアオカメムシがみられた。 ・9月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・10月の気温は高いと予想されている。 [注意すべき事項] ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	<u>やや多い</u>	[予報の根拠] ・9月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・10月の降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。 [注意すべき事項] ・窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(ストロビー、シグナムなど)、SDHI 剤(アフエット、シグナムなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並～ <u>やや多い</u>	[予報の根拠] ・9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・10月の気温は高いと予想されている。

アザミウマ類	並～ <u>やや多い</u>	[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難なため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・施設栽培では、開口部に 0.8mm 以下目合いの赤色防虫ネットを張り、成虫の侵入を防止する。
--------	-------------------	--

2 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	少ない	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・10月の降水量は少ないと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・気温 20～24℃で発生が多い。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	少ない	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・10月の降水量は少ない、日照時間は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。 ・昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)、SDHI 剤(アフエットなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
褐斑病	やや少ない ～並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・10月の降水量は少なく、気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・高温、多湿のハウス栽培で発生が多い。 ・初期防除が重要である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
ウリノメイガ	やや少ない	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・10月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
ミナミキイロアザミウマ (黄化えそ病の発生に注意)	やや少ない ～並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・黄化えそ病の発生も見られなかった。 ・10月の気温は高いと予想されている。

<p>ミナミキイロアザミウマ (黄化えそ病の発生に注意)</p>	<p>やや少ない ～並</p>	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミナミキイロアザミウマは、発生初期に、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。 ・ミナミキイロアザミウマは、きゅうり黄化えそ病等の原因ウイルスを媒介するので防除を徹底する。 ・きゅうり黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか、しろうり、にがうり等に感染する。 ・MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。 ・生育初期の感染による被害が大きい。 ・ハウスの開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。
<p>コナジラミ類 (退緑黄化病の発生に注意)</p>	<p>やや多い～ <u>多い</u></p>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、コナジラミの発生が平年よりやや多かった。 ・退緑黄化病の発生は見られなかった。 ・10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にタバココナジラミによって、退緑黄化病が媒介される。 ・退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか等に感染する。 ・CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。 ・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。

3 ねぎ ※ねぎは令和5年度より巡回調査を開始したため、平年値がありません。

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
<p>葉枯病</p>	<p>発生に注意</p>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では被害株率約4%であった。 ・10月の降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒斑病と症状が似ている。 ・病原菌は糸状菌の一種。 ・やや低温(15～20℃)と適度な降雨により発生が助長される。 ・被害葉は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
<p>ネギハモグリバエ</p>	<p>発生に注意</p>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では被害株率が約1.5%であった。 ・10月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、従来の系統とは食害方法が異なる新系統の発生が確認されている。一葉に複数頭の幼虫が内部に潜り込んで集中的に葉肉を食害し、葉が白化したようになる。 ・発生を認めたら、系統にかかわらず、「ハモグリバエ類」「ネギハモグリバエ」に適用のある薬剤を散布し、発生初期の防除を徹底する。

ネギアザミウマ (えそ条斑病)	発生に注意	[予報の根拠] ・9月の巡回調査ではネギアザミウマの寄生株率が約8.5%であり、えそ条斑病の被害株率が約1%であった。 ・10月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。
		[注意すべき事項] ・ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ネギアザミウマはえそ条斑病の病原ウイルスであるアイリスイエロースポットウイルス(IYSV)を媒介する。 ・被害株は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。

4 かんしょ(さつまいも)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
基腐病	発生に注意	[予報の根拠] ・9月の巡回調査で、一部地域で発生が見られた。 ・10月の降水量は少ないと予想されている。
		[注意すべき事項] ・早期発見に努める。発生株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分し、その後薬剤散布する。 ・病原菌は被害残渣で越冬することから、残渣はほ場外に持ち出し処分する。持ち出しできない場合は、収穫後速やかにすき込み、分解を促進する。その際、残渣は細断してすきこんだほうが次作の基腐病の発生を軽減できる。

D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	<u>やや多い</u> ～ <u>多い</u>	[予報の根拠] ・9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年よりやや多かった。 ・9月の巡回調査では、露地ねぎ、キャベツで発生が見られた。 ・10月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	<u>やや多い</u>	[予報の根拠] ・9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年よりやや多かった。 ・10月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

コナガ	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年より少なかった。 ・9月の予察灯への誘殺虫数は、平年より少なかった。 ・10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
オオタバコガ	並～ <u>やや多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年より多かった。 ・9月のなす(露地栽培)での巡回調査では、幼虫の発生は平年より少なかったが、卵は確認された。 ・10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫の捕殺は、被害軽減効果大きい。 ・摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場から持ち出し処分する。
アブラムシ類	並～ <u>やや多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、なすで発生が平年よりやや多かった。 ・9月の黄色水盤調査における発生は平年並であった。 ・10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナジラミ類	<u>やや多い</u> ～ <u>多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、なす、きゅうりで発生は平年より多かった。 ・施設トマトの黄色粘着トラップに誘殺が確認された。 ・10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なすやきゅうり等施設栽培では、開口部に0.4mm目合いのネットを張り、成虫の侵入を防止する。 ・葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。 ・ほ場内や周辺部の除草を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

- 大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・ホームページ
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

- 病害虫発生情報メールサービス
申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループメールサービス担当
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailsservice.html>
- おおさかアグリメール
申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所企画部企画グループおおさかアグリメール受付担当
<https://www.knsk-osaka.jp/nourin/agrimail/>
- Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」(大阪府植物防疫協会)
<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

※情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です。